



ひとにやさしく がんばりすぎずに継続し勇気をもって しっかり学ぶ 東っ子！414名

【今回の学校だよりは、電子媒体のみでの配信となります。児童用には教室に先生方が掲示していただいています。( )】

## 脇田哲郎先生（九州栄養福祉大学 小児教育学部小児教育学科 教授）をゲストにお迎えして 5年3組（柴田 航学級）で特別活動：学級活動（1）の全職員参加の研究授業を開催し研究を深めました。

本日は、上記に掲げてありますように、5校時（13時50分～）に5年3組（柴田 航先生）で、研究授業を開催し、児童放課後に全職員で研修会を開きました。



ご指導ご助言をいただける講師としてお招きさせていただいたのは、現在の学習指導要領改訂・編纂に関わられた九州栄養福祉大学小児教育学部小児教育学科教授の脇田哲郎先生です。本当に脇田先生はお忙しい中、本校の子ども達や先生方においていただいたことに感謝をいたしております。

さて、本校の研究主題は「より良い人間関係を深め、確かな学力をみにつける児童の育成」です。研究の副主題は、～学級活動（1）における議題選定や合意形成の工夫を通して～です。今回、柴田航先生が学級活動(1)の学級会で、子ども達から意見を吸い取って次のような議題を選定し話し合い活動を計画しました。議題は「ジャンプ大会の記録315回を超えるために作戦を立てよう」です。柴田先生と計画委員会のお友達とで、議題の提案者の森さんのテーマに光を当て話し合いを持たれたのです。森さんが提案された理由は、「全校のために、そして自分たちのために315回という目標を達成して、最高の思い出をつくりたいから。」だったそうです。

柴田先生の考えられてある話し合いのポイントは、次の3つです。①315回を超えるという目的に合っているか？②みんながやる気を持って取り組めるか？③自分たちで計画実行できるか？また、何より大切な事です、柴田航先生は、学級会が始まるまでの手立てを準備できれば、子ども達が「自分事として真剣に作戦を立てている」状態の話し合いができるからです。ということで次のめあてをもって授業に臨まれました。【「ジャンプ大会の記録315回」という目標に向かって、どのように取り組むかを、「特訓」「団結」「NG」の3つの柱に分けて話し合うことを通して、進んで話し合いに参加し、折り合いをつけて集団決定できるようにしたい。】です。次によかったことは、一般の教師が手を抜きがちな実践的な活動に向かう話し合いのための手立てを「授業仮説」という項目を時系列に項立てて手立てを述べてあったことです。話



し合いが合意  
形成できるよ  
うに事前の活  
動では計画委  
員の子も達  
と様々なパ



ーンで考えを練りあわれていました。話し合い活動導入段階ではVTRを準備され、比較されました。

話し合い活動では質問タイムを設定したり、Y字チャートで板書整理したりすることにチャレンジ（問題提起）されました。授業の週末段階では話し合い活動をした後の気持ちを書かせる活動を位置づけることで活動への意欲化につなげようとするなど手立てがしっかりとられていました。先生と子ども達の表情を見ていると、12月23日まで22日しかないと思わせるのか。22日もあると思わせるのかもノートに記述する子もいてとてもとてもスリリングな授業でありましたし、話し合う環境を整えられ、折り合って納得して次の実践につながる素敵な授業でありました。発言できなかったお友達も「うんうん」や「なるほど」とうなずいたり、ノートに友達の発言の良さが記録されたりしていました。12月23日（火）のジャンプ大会にむけての今後の子ども達と柴田先生の実践が楽しみです、ジャンプ大会を終えてから冬休みになります。充実した冬休みとさわやかな気持ちで新年と3学期を迎える5年3組の皆さんの笑顔が浮かんできます。「限りなく『学級会は子ども達のもの』に近い」素晴らしい子ども達で運営する柴田先生と子ども達の授業と脇田先生の勇気をいただいた研修にチーム東小の仲間みんなでご参加できましたことにお礼を申し上げます。

11月22日(土)の飯塚市放送コンテストに出場の6年生の中原さんと重水さんが本物のアナウンスリハーサルを給食時間に実施して頑張りました。

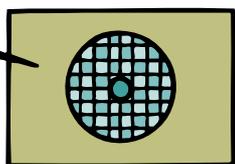
朗読部門出場：6年生 中原 杏奈さん&アナウンス部門出場：6年生 重水 香穂さん

スマイル全開!で行きましょう!ファイト!

「笑う門には福来る」という言葉を大切にされて日々ご努力されている先生が、東小にはいらっしやいましたね。二人の恩師である「末吉 優子先生」の心意気と笑顔(スマイル)を思い出してください。22日は自分流のアナウンスをしてほしいです。わたし達も笑顔で見守りながら聴かせていただきます。

「いい放送しよう」なんて思ったり、「間違わないようにしよう」なんて思ったりしないでください。止まっても「失礼しました。」でもう一度スタートすればいいのです。笑顔で自分のパフォーマンスができれば大丈夫です。スマイルスマイル.....。

## 放送委員



担当の服部先生と打合

せる中原さんと重水さん

